

第6回 常滑市立図書館基本構想策定委員会 議事要旨

日時：令和8年1月16日（金）
14時00分～16時30分
場所：常滑市役所1階 会議室I

1 開 会

2 議 事

(1) 基本方針について

事務局より 資料1 に基づき、基本方針について説明

(土方宗広 副委員長)

- ・今後この基本方針を見直す余地はあるのか。あるいは今日の段階で方針を決定し、図書館のあり方を決定していくのか。
- ・基本方針5の目標①に「活動の場所を提供することで」とある。新しく整備する図書館の中に多目的スペースを見込むと読み取れるが、今後、整備方法や規模などがみえてきた時に、すぐわない方針は変更できると考えてよいか。

(事務局)

- ・お見込みの通り。また構想全体を整理する中で修正していく予定。

方針5「始めたい」が広がる図書館

(井村美里 委員)

- ・全体的に方針がキャッチーな書き振りとなっており、図書館のハードを考える委員会でありながら、その先に人が主役だなということが分かるのが非常に良いと思う。
- ・第5回の話題の中で、例えば、図書館市民ワークショップ（以下「ワークショップ」とする。）の場に本の展示があったように、学校や企業、店舗やイベントに図書館が出て行くことで、意外な所で本と出会えるといいなという話をしたと思う。「気軽に行ける」という表記だと、意思を持っていくように思ってしまうが、それだけではなく、あっと思ったらそこに本があったというようなニュアンスがあると良い。

- ・方針5の目標②については、まさに「人が主役」ということが継続的に展開していくイメージが読み取れるようになった。

(事務局)

- ・どの方針に含めるのが良いかを含めて整理し、修正させていただく。

(山田朝夫 委員長)

- ・方針5については、2段書きになっているが、事務局はどの案でいきたいか考えがあるのか。それとも、2つの案の内、どちらにしようかということなのか。

(事務局)

- ・事務局案から、より踏み込んだのが下段の目標となっている。どちらが良いかご意見を伺いたいと思い、併記させていただいた。

(豊田雄二郎 委員)

- ・事前の委員からのコメントを反映させたのだと思うが、下段の目標は少し硬い印象を受ける。
- ・「地域の課題解決」は今後、図書館の大きなテーマになっていくと思うので入れたかったが、少し硬くなってしまい、他の文章との整合性がとれなくなる。図書館が「市民と行政をつなぐ手伝いをする」というキーワードはぜひ入れてほしい。

(赤尾恵子 委員)

- ・方針5の目標①に書かれている「個人の経済的自立」というのが、自分の中のイメージでは、フリーランスの人のサポートやこれから起業される方のサポートというイメージがあるが、「地域の活動」は何かワークショップなどを開くというイメージで重ならない。
- ・また「市民と行政を繋ぐ」というのは、市の職員が常時図書館にいるという印象を受けるが、それで間違いないか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・はじめは「女性の自立」を考えたが、5年後・10年後を考えた時にそぐわないとコメントした。そのため、事務局が少しぼやかして「経済的自立」と書いたのではないか。ただ、それだけではなく、例えばベンチャー企業を起業するときに、図書館に行って調べ物をして、そこから実際の起業に繋がっていく、そんなイメージをしていた。
- ・地域の課題解決については、例えば空家問題や、車のライドシェアのように、必ずしも行政がやるのではなくて、例えば、労働者協同組合を作って、市民主体で活動する。実際に組合を作りたいなど思って、右往左往しているときに、もちろんインターネットで調べればわかることかもしれないが、まずは図書館に行って、そこから始まるというイメージをしていた。

- ・自分も市の職員が図書館、あるいは近くにいるというイメージで、本だけでは分からなかったが、職員に尋ねればもっと詳しく分かる、若しくは、補助金について知ることができる。そのように繋がっていくのが理想的である。

(赤尾恵子 委員)

- ・岐阜市の図書館のようなイメージと思えばよいか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・そのとおり。職員が常駐しているので、声をかければ、その先に繋がっていくと思う。ただ市の職員が常駐しているというのは、今の常滑市では、現実的ではないと言われてしまうかもしれないが。

(山田朝夫 委員長)

- ・何でも知っているようなすごい職員が配置できたり、図書館が市役所の近く、あるいは合築されていれば可能かもしれないが、やはり難しいように思う。

(山際史子 委員)

- ・自分は、方針を初めて読んだ時に、ビジネス支援なのかと思った。図書館を頼りにしていただけるのはとてもありがたいが、どちらかという行政がする仕事に近いなと思ってしまった。
- ・やはり図書館が一手に引き受けるという所までは難しく、市民協働課や包括支援センターのようなところと上手に繋がっていけるといいなというのが、正直な感想である。
- ・札幌市のまちなか図書館では、そういった問題が起こった時に、回答できる人が常に配置されている。市の職員ではなく、月曜日は司法書士、別の日には弁護士や行政書士、そのように、いつ誰が来るか告知して来てもらうという方法は考えられると思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・札幌市のように、毎日、たくさんの需要があれば、人を置くことも検討するかもしれないが、かなりの費用がかかることなので、それを常滑市でやれるかと言われると、難しいのが正直な所だと思う。

(山際史子 委員)

- ・理想とするところは分かるが、事務局のはじめの案の方が、方針としては良いと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局の案だとビジネスサポートのような所が入らないが、豊田委員の思いを、事務局の案に入れようとするとうなるか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・「地域における課題の解決やまちづくりに関連した活動」のようなイメージになる。ビジネス支援については、目標③で、ミドル世代やシ

ニア世代だけに言及するのではなく、世代に関係なく、ビジネスを新しく始めたいと思う人に何かサポートをする。そのような書き振りでも良いのかもしれない。

(山田朝夫 委員長)

- ・自分としては、図書館のスタッフに全てお任せというよりは、仲間が欲しいなという人たちが自主的に集まって、何かを始めてもらえるのが良いと思う。

(山際史子 委員)

- ・図書館のスタッフも考えるが、いわゆるネットワーク型行政のように、行政と市民と一緒に考えていくのが良いと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・色々な自治体を渡り歩いてきたが、常滑市は、市民の要望に対して、市役所が責任をもってやらなければならないという意識が強いように思う。少しずつ変わってきてはいるが、市役所のあり方も変わっていかねばいけない。

(豊田雄二郎 委員)

- ・自分もそう考えている。目標②は、図書館をどう盛り上げていくか、新しく作っていくかに絞られている。
- ・一方で、今の常滑市民に足りていないのは、当事者意識が欠けていることだと思う。何か課題が見つかったら、すぐに「市役所の仕事だ」となり、文句は言うが自分たちでは動かない。その意識を変えるためにも、行政とともに、自分の住む地域をどう盛り上げていくかなど、もう少し幅を広げた方針としても良いのではないか。

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局は委員の意見を反映して、方針⑤の目標を整理すること。

(2) 想定される機能及び費用について

事務局より 参考資料 1 に基づき説明

- ・整備費及び運営費の試算のため、ワークショップで頂いた意見を全て叶えた場合を前提に、面積や必要な機能、またそれらの費用を試算している。
- ・第5回の策定委員会で、前提条件が整理できたため、駐車場など外構部分で必要な面積、座席数、閉架書架の面積などを改めて試算し結果、整備費用が50.6億円、運営費用が現在の0.85億円か

ら大幅に増加し、3.54億円となった。

②想定される面積

(久田博司 委員)

- ・②想定される面積で示されている3,840㎡という数字があるが、これは標準値なのか最大値なのか、あるいはレンジのようなものとなるのか。
- ・今後、市議会などで、3,840㎡で50.6億円の事業費と言って諮ると、大きな箱ものだと一蹴されてしまうような気がするので、ある程度の幅を持たせても良いのではないかと思った。

(事務局)

- ・ワークショップで頂いた意見を全て詰め込んだ場合を想定しているので、現時点では、最大値である。一方、6万人規模の自治体であれば、特段大きいものではないので、面積の内訳の中で整理している付加機能以上に、別の機能を追加するのであれば、増えていく可能性も考えられる。
- ・基本構想で、例えば、3,000㎡～3,500㎡のように幅を持たせて書いている自治体もいる。今後の議論の中で、こういった機能を減らしても良いということがあれば、2,500㎡～のように幅を大きくすることも可能だと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・中井孝幸委員も、第5回の委員会の中で、まずは、必要な機能を全て出して積み上げていって、今後、基本計画や設計の中で、自治体の予算や立地場所などに合わせて、そぎ落としていくことになると話されていたと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・面積や機能といった内容は、中井孝幸委員が専門だと思うが、見ていただいているのか。

(事務局)

- ・本日、出席が難しいとのことだったので、事前に確認いただいている。

(久田博司 委員)

- ・ワークショップの中では、学習室のほかに、子供のエリアや滞在スペースについて多くの声が上がっていたが、優先順位なども含めて、基本構想の中に、どのように盛り込んでいく予定でいるか。

(事務局)

- ・②想定される面積の内訳を書いた、4頁の別紙を見ていただくと、上下2段に分けて書いている。上段の3,015㎡は最低限必要だと思う機能を書いており、閲覧スペースやお話の部屋などは、こちらに含んでいる。
- ・下段はあったらいいなという学習室や多目的室などをはじめとする付加的な機能をまとめている。第5回の委員会の中では、優先順位は難しいということであったが、閲覧のスペースに、仮に優先順位を付けるなら、こちらの表の中でと考える。

(山田朝夫 委員長)

- ・図書館長を経験されている委員の方がいるが、積み上げた機能や面積の中で、これがないと図書館が成立しないとか、こういった付加機能が必要だという意見はあるか。

(山際史子 委員)

- ・座席数は240席あり、子供の閲覧席や雑誌・新聞を見る場所それぞれ書かれているので、良いかと思う。

(井村美里 委員)

- ・付加機能の優先順位についても、書かれている内容で違和感はないと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・久田委員の質問は、ワークショップで出た意見の中で、これがないというものがあるという主旨か。先ほどの事務局の説明の中で、最大値とのことだったので、今の段階で入っていないと漏れてしまうので、教えていただいた方が良くと思う。

(久田博司 委員)

- ・ワークショップを振り返ったときに、居心地の良い場所や子供のエリア、学習室などといった声が多く上がっていたので、基本構想にどのように反映されるのかという趣旨である。たくさんの意見があったので、全て書かれているという訳ではないが、この内容で問題ないと思う。

(3) 立地場所について

事務局より 資料2 に基づき、立地場所について説明

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局の説明にもあったが、立地場所を考える際には、既存の3施設

をどうするかも合わせて考える必要がある。場所ごとに合わせて議論すると複雑になってしまうため、まずは市有地1～7の中で、どこがふさわしいかご議論いただいた上で、その後既存の3施設について考えていただきたいと思っている。

(山田朝夫 委員長)

- ・議論に入る前に、まずは資料の内容や質問などあればいただきたい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・平屋建てから優先順位が考えられている。中井孝幸委員も拘られていたが、平屋の利点はどんなことがあるのか、事務局の方で知見があれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・空間作りの中で、連続性や全体を見渡せる、広く使えるというメリットがあると思うが、建築費が高いといったことや、運営側からの課題もあると聞いている。

(山際史子 委員)

- ・全体を見渡せることは安全上とてもよい。一方で、レファレンスなどで児童書と一般書とにまたがった時や、電話がかかってきたときなど、平屋建ての図書館では、裏でスタッフが走り回って頑張っている。

(井村美里 委員)

- ・前回の委員会の中で、どこか具体的な場所を決めた方がよいということで、この資料が出てきて議論を進めるとのことだと思うが、自分としては、まだテナントに入る案も捨てていない。
- ・スケジュールを考えると、早く整備できるし、建設費・運営費もテナント入居した場合の方が安くなると思う。先ほど面積の内訳の説明があったが、カフェやホールなど、テナント内に他の施設があれば作らなくても済む。
- ・最終的には、行政側で判断するのだと思うが、委員会の中では、テナント入居での議論があっても良いし、新築の議論があっても良いと思うので、どのような前提で、この後議論を進めれば良いのか教えていただきたい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・自分も仮に市有地であれば、どこが良いのかという議論だと思っている。テナント入居の考えもあるだろうし、県有地という可能性もあると思っている。

(山田朝夫 委員長)

- ・整備の方法や市有地以外の議論もあると思うが、進めていくにあたり、まずは市有地の中で、3, 840㎡を前提に理想形を描いていただきたい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・例えば市有地⑥であるが、地元なので土地勘がある。すぐ北に西阿野公民館というものがあり、利用も少なく、土地も余っており駐車場として利用できるが、そういったことも踏まえて、検討されたのか。

(事務局)

- ・まずは、その敷地のみで整備が可能かを考えており、建築基準法に抵触しない範囲で、平屋建て、あるいは建物面積2,500㎡の建物を確保できるか考えている。
- ・市有地⑥を見ると、60台程度の駐車場しか確保できておらず、周りでもどこか確保する必要があるのでは、その部分の評価は低くなっている。仮に今後の議論で、近くの別の用地が安価に借りられることがわかれば、その部分の評価の差はなくなるのではないかと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・出せる場所は全て出したと思っているが、近くの公の土地を利用するということも考えられないわけではない。ただ相手があることなので、公民館だと字(あぎ)に相談が必要となる。
- ・まずは出せる場所は全て用意してきたので、この中で議論いただきたい。

(山田朝夫 委員長)

- ・旧常滑高等学校敷地の話題はワークショップでも出ていたが、事務局で何か情報はあるか。

(事務局)

- ・愛知県の記者発表の内容しか、情報を持っていないが、グラウンドだった部分の収蔵美術品倉庫と駐車場を整備する計画となっていた。来年度からPFI方式で事業者を選定し、令和9年度から設計に入るというスケジュールである。
- ・もし、常滑市が敷地の中に図書館を整備したいとなると、収蔵美術品倉庫の整備が終わったあとに、野球場だった場所に建てることになるのではないかと思う。
- ・約1万3,000㎡と面積は十分なのだが、校舎やグラウンド側とは敷地が分かれており、接道が確保できないため、かじま台側から進入路を設けることになるが、高低差がかなりあるため、それだけでかなり費用がかかってしまう。

(豊田雄二郎 委員)

- ・自分は、政治的な話し合いが必要となるが、民間のPFI事業の提案の中で、収蔵美術品倉庫に、集客施設として図書館を一体整備してもらうことをイメージしている。

(土方宗広 副委員長)

- ・記者発表の内容だと、収蔵美術品倉庫のPFIによる運用期間が定められており、どこか他に良い場所が見つければ、その後は無くなってしまう可能性もある。恒久的に使用するのであれば、議論の余地も出てくると思うが、現時点では何ともいえない。

(山田朝夫 委員長)

- ・現時点で、旧常滑高等学校敷地の情報はこれ位だと思う。
- ・昔から、跡地の利活用の話題があり、市民の方の中には「もともとは市や個人が寄附した土地だから、返してもらえばよい」という意見もある。過去の経緯はそのとおりだが、返す条件が付いているわけではないので、それは難しい話であると考えている。
- ・土地を県から借りるとなってもかなりの賃料になるだろうし、あの場所を買いたいとなった時に使いたい分だけは売ってくれないと思う。校舎の部分を使うことも考えられなくはないが、常滑市側で解体することになるので、多額の費用がかかる。

(久田博司 委員)

- ・資料の中で、「候補地として具体的な絞り込みを行うためのものではない」と書かれているが、検討した結果は、基本構想には盛り込まないのか。あるいは数案は載せるとか、指標の検討だけを行うのか。

(事務局)

- ・理想の図書館を市有地の中で整備するのであれば、この土地が一番適していると判断したという結果は、書き込みたいと思っている。

(山田朝夫 委員長)

- ・それでは、7つの市有地の中で、可能性がある場所を考えていただきたいが、委員の方の意見はどうか。ここが良いや、この場所は難しそうといった意見でも構わないので、教えていただきたい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・場所の条件や現実的に市がこれから開発できるかという点などを総合的に考えると、市有地⑤、一択だと自分は思う。

(山際史子 委員)

- ・津波や液状化のこともあるが、自分も市有地⑤が良いと思う。

(井村美里 委員)

- ・例えば、美術館のように年に数回行くような施設とは異なり、図書館は2週間に1回は行って欲しい施設であることを考えると、周辺的环境や設計のしやすさも大切ではあるが、アクセスが非常に重要な

要素だと思う。

- ・中心地でこの中から選ぶとしたら、市有地⑤が良い。

(赤尾恵子 委員)

- ・ワークショップの時から、市有地⑤が良いと思っていた。
- ・ただ資料にも記載があるが、土壌汚染について、内容を詳しく知らないで教えていただきたい。

(事務局)

- ・常滑市民病院の新築移転にあたり、解体準備の一環として土壌汚染調査を行った所、人体に影響があるレベルではないが、フッ素や砒素、セレンや鉛といった有害物質が含まれていることがわかり、一部の場所では基準値を超過していた。
- ・市としては自然由来の物質ではあるので、病院が原因ではないと、愛知県には主張はしたが、埋め立て時の土が原因である可能性もあるため、いずれにしても土地に起因するものだとされている。
- ・図面の中で、建築可能とされている場所は、駐車場としての利用であったので、ほとんど検出がされず、一部検出された場所も土壌改良が行われている。
- ・一方、青色部分は、病院が建っていた場所で、このエリアからの有害物質の検出が多く、建物の解体工事の際に支障となる部分は取り除いたが、全て撤去したわけではないので、駐車場としての利用しかできない。

(山田朝夫 委員長)

- ・病院の解体工事の際に、愛知県からは、青色のエリアについては全て汚染物質を撤去する意見があったが、工事には多額の費用がかかること、今後の利用も分からないので、そちらについては、その時に検討させていただきたいという話をした。
- ・一方で、地下水汚染もあるので、近くの井戸が汚染されないように、定期的に水質調査をしてほしいと言われている。

(事務局)

- ・定期的なモニタリングの中では、これまで水質に異常はない。

(山田朝夫 委員長)

- ・建築可能なエリアでも、一部建物があつた場所をはじめ、杭が残されたままとなっている。元々が埋め立て地なので、地下30m位の固い地盤層まで入っているので、その上に建物を建てる時に支障となる場合は撤去が必要である。
- ・愛知県は杭も撤去して欲しいという立場であったが、埋め立て地であり、地盤の安定に資しており、撤去すると周辺の道路に影響があるかもしれないという説明をし、長い議論にはなったが、現在は、杭の残置について理解いただいている。

(久田博司 委員)

- ・比較表の中で、「生活環境保全条例」と書かれており、評価に「×」がつけられているが何か制限があるのか。

(事務局)

- ・工事などにあたって、表層から30cm以上、土地を触る場合は、届出が必要というもの。制限がある訳ではないが、別の法律などで、手続きが必要な場合は、一律「×」をつけている。

(山田朝夫 委員長)

- ・ワークショップの中で、津波により大事な本が被害にあることを心配されていたと思うが、ここは津波の想定される浸水が最大で50cmとなっている。
- ・工事の際には、どうしても処分が必要な土が出るが、それにも費用がかかる。土を再利用するなど、ある程度地盤を上げることで、駐車場までは難しいが、その辺りの課題はクリアできると思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・市有地⑤について、民間事業者からすると駅から少し遠いと言われたようだが。

(事務局)

- ・ホテルや商業施設を考えると、駅近ではないというのが、民間事業者からの見解であった。ただ、常滑駅から十分歩いて行ける距離。

(平野小月 委員)

- ・今図書館がないエリアに欲しいという話だと、市有地⑤が良い。
- ・旧図書館とほとんど距離は変わらないと思うし、交通弱者と言われる車に乗れない方でも、十分行くことができると思う。グリーンなどが乗り入れてくれば、さらに利用者は増える。

(山田朝夫 委員長)

- ・概ねみなさんの方向性が出てきたが、仮にこの場所に図書館を整備した場合に、既存の3施設をどうしたら良いか、委員からの意見を伺いたいかどうか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・前回申し上げたとおり、グリーンやコミュニティバスをセットで考えるのであれば、青海本館や南陵分館については、分散移転前の状態に戻すのが良い。もちろん費用的に問題ないのであれば、現状維持が一番ベターではあるが。

- ・こども図書室は本館へ統合することで良いと思う。

(井村美里 委員)

- ・自分も市有地⑤になるのであれば、青海本館や南陵分館は、分散移転前に戻すのが良いと思う。こども図書室も中央館に統合する。
- ・書庫については、青海本館を見学したときに、それなりに立派な書庫があったので、運営上やりにくいとは思いますが、2か所に分散することも考えられるのではないかと。

(山田朝夫 委員長)

- ・書庫の分散については、山際委員の意見を聞きたい。

(山際史子 委員)

- ・青海本館、南陵分館を分散移転前の大きさに戻して、こども図書室を統合することを選ぶとしたら、本当は一つにまとめた方が良いが、第1書庫、第2書庫という感じに分けて、現時点ではすぐに思いつかないが、常滑焼や谷川文庫以外のあまり借りられないカテゴリーの本を青海本館の方に置くということも考えられる。

(山田朝夫 委員長)

- ・確認だが、3,840㎡の内訳にある閉架書庫450㎡で、全て収まると考えて良いのか。

(事務局)

- ・蔵書目標の30万冊について、開架率が50%と想定した場合に、残りの本が全て収まるような計算をしている。

(山田朝夫 委員長)

- ・運営上やりにくいのであれば、書庫の分散はせずに、ある程度の額を投資して作った書庫ではあるが、別の利用を考えた方がよい。

(山際史子 委員)

- ・学校の図書をバックアップするような機能を作成して、その部分だけ青海本館に残すということも考えられる。

(山田朝夫 委員長)

- ・仮に学校側の要望があっても、青海本館に機能を残すとしても、そこに人件費がかかる。
- ・本館を閉館したときに、運営費がかなり安くなると思っていたのだが、こども図書室を整備したことで、結局あまり変わらなかった。色々な場所にたくさん図書館があると、やはり人件費がかかってしまう。

(山田朝夫 委員長)

- ・整備にかかる50.4億円も、もちろん大きいのだが、それ以上に、現在8,500万円の運営費が、3億円近く増額するのが、市への負担が大きい。

- ・運営費のことを考えると、できるだけ集中させたいため、本当にできるかどうかは分からないが、ワークショップでも出ていた「中央に全て集中させ、青海本館と南陵分館は廃止する」という議論にも惹かれている。

(豊田雄二郎 委員)

- ・機能によると思う。青海本館と南陵分館は、予約の受取や返却だけができる場所とすることも考えられるだろうし、それであれば、ソフト面の検討をすることで可能性はあると思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・一方で、中井孝幸委員の前の発言の中で「中学校区に一つは図書館が欲しい」という意見もあったがどうか。

(山際史子 委員)

- ・常滑市は縦に長いので、それをするとかなりの費用がかかることになる。こども図書室は統合した方が良いと思っているが、借りたり返したりという機能は、みなさん青海本館にも南陵分館にも残して欲しいのだと思う。

(久田博司 委員)

- ・ワークショップの時には、青海本館と南陵分館は、予約の受取や返却だけの拠点として、縮小・無人化すると回答した。併せて、こども図書室も本館に統合すれば、コストを下げることができ、その分を電子図書や遠方で来られない方々へのサービスの提供を行うのが良いと思う。
- ・ワークショップの最終レポートでも、青海本館・南陵分館の「充実」となっていたのもあるかもしれないが、一番低かったと記憶している。市民メンバーの方も、割と現実的な部分があって、抑えるべきところは抑えて、コストの負担を軽減させようという意見があったのも事実である。
- ・個人の意見とワークショップの雰囲気からすると、端末を置くかどうかの議論は残るが、ある程度縮小させながら、利用者が不便がないような形ができると良い。

(平野小月 委員)

- ・以前の3館での体制に戻すのが良いと思う。青海本館と南陵分館については、公民館利用者の意見もあるので、分散移転前の公民館図書室に戻すのが良い。
- ・こども図書室については、飛香台の子供が大きくなっていて、出来た当時から比べると利用者が減っているので、無理に継続しなくても良いと思う。
- ・新しく良い図書館ができて、そちらに学習室ができたり、本が充実し

て、さらに交通の便が良ければ、子供たちはそちらを利用することになるのだと思う。

(中井明子 委員)

- ・自分も、こども図書室は本館に統合して、青海本館と南陵分館は分散移転前に戻すという、みなさんの意見と同じ。

(井村美里 委員)

- ・前回、中井孝幸委員から、瀬戸市では学校図書館を週末だけ開放しているというご紹介があったが、身近な場所に図書館があって、とても良いと思った。
- ・中央に大きな図書館ができて、他を縮小していくのであれば、そういった、学校図書館を開放するといった別の形で、本に親しむ機会を設けるということを今後考える余地はあるのかお聞きしたい。

(土方宗広 副委員長)

- ・今の小中学校を週2日開放すると、まず問題となるのが人件費。13校すべてとなるとかなりの費用となると思う。
- ・次に問題となるのが、学校図書館に大人が読みたいと思う本を増やさなければいけない。仮に中学校に限ったとしても、絵本のような図書は置いていないので、保護者と子供が行きたいと思う本を揃えなければいけない。
- ・学校図書館を充実するよりは、青海本館と南陵分館を維持して、そこをもっと充実させる方が良いと思う。

(山際史子 委員)

- ・学校図書館はほとんど3階の端の方にあたりして、階段でしか行けない。お年寄りの方に、「利用はできますが、階段で行ってください。」というのは心苦しい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・学校の可能性として、地域コミュニティの拠点となることは理想的である。最近は少し逆行してしまっているが、学校自体が開かれていて、そこに地域の人たちがやってくる、そういった可能性はあると思うが、現実的にはとても厳しい。

(土方宗広 副委員長)

- ・図書館ではないが、平日に空き教室を、高齢者の方が団らんする場やカフェのスペースとして利用することは、実際にもある。校内を探せば、そういったスペースは確保できるかもしれないが、やはり図書館の解放となるとハードルが高いと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・ただ学校内にすでに図書館というインフラがある。人を配置するか本を買うという所まで踏み込まなければ、そこを活用するかどうか

かの問題なので、その視点だけをどこかに盛り込んでも良いのかもしれない。

(山田朝夫 委員長)

- ・学校をサロンのように使うというのは、セキュリティの観点からは問題ないのか。離島など、みんなが顔見知りという所であれば別かもしれないが。

(土方宗広 副委員長)

- ・平日の子供たちが学んでいる時に、学校の一角にそういったスペースがあると、触れ合う時間ができて良いと思う。

(山際史子 委員)

- ・もし将来的に検討する予定があるなら、学校を建て直す機会があれば、ぜひ図書館は1階に整備してほしい。

(山田朝夫 委員長)

- ・学校を身近な図書館として開放するのであれば、本館の規模を小さくするなど考えなければ、常滑市の財政では難しい。

(3) 整備費及び運営費の見込みについて

事務局より 参考資料 2 に基づき説明

- ・これまでの議論を前提に整備費を積み上げると、設計から竣工までに、約52.2億円かかる。全て借入れをすることはできないので、財源のうち32.7億円は借入、残りの19.5億円は現金の準備が必要となる。
- ・32.7億円の借入れをすると、現在の利率でも41.6億円の返済額となり、多い年で約1.8億円の返済額となる。
- ・運営費については、現在の図書館は、学校図書館の図書費を含めて、約0.85億円だが、資料の充実や施設の維持管理費、指定管理料、学校司書の配置、ICTなどを全て盛り込むと、約3.9億円となる見込み。

事務局より 資料 3 に基づき説明

- ・一般会計の収支見通しが、令和7年の当初予算時点では、令和8年度の財源不足の見込みは7.4億円であったが、令和8年度の当初予算要求時点では、約25.9億円の財源不足となっていること、主な原因としては、公共施設の改修費の増加と全国的な社会保障関係費の上昇、学校給食調理場の新築と小中学校の体育館の空調整備に係る

借入れの返済開始であることを投影資料にて補足した。

(豊田雄二郎 委員)

- ・ 財政が芳しくないのはもちろんなのだが、愛知県は裕福な自治体が多いため、県内の自治体を並べるとどうしても悪く見えてしまうという点は誤解してはいけない。
- ・ 全国的に見ると上位ではないが、それほどひどくはない。厳しい財政状況の中で、大型投資が難しいのは間違いないが、かつての夕張市のような危険水域ではない。
- ・ 以前の資料からも分かるように、収入は決して悪くないのだが、昔の設備投資の借入れの返済に苦しんでいるのが、常滑市の現在の状況だと思う。
- ・ 財政が厳しいからといって、あらゆるものを縮小すると、市民の活力がどんどん無くなっていくので、結局のところは、何に投資して、何をやめるのかということだと思う。
- ・ その意味では、図書館は投資に値する施設で、借入れをして借金を作ったとしても、未来の子供たちに、説明はできるし、何ら恥じるものではない。

(久田博司 委員)

- ・ 数字だけ見ると財源不足は理解できる。図書館を整備したから、常滑市が潰れてしまったということにはなって欲しくない。
- ・ 資料3の収支見通しをみると、「図書館整備にかかる歳入・歳出は含まれていない」と記載があるが、先ほど、参考資料2で説明のあった整備費と運営費を反映させたシミュレーションはないのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・ シミュレーションについては資料3の「③今後5年間の一般会計収支見通し」を見ていただくと、現在、7億円から13億円の財源不足となっているところから、参考資料2の「②運営費」にある約5.6億円、さらにマイナスになると考えていただければと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・ 予算ベースだけで比較しても意味がない。決算ベースと照らし合わせながら、実際にどれだけ 財政調整基金を取り崩すことになるかで判断すべき

(山田朝夫 委員長)

- ・ 去年までは、財政調整基金を取り崩すことで、何とか帳尻を合わせていたが、今年はとても心配している。
- ・ まず世の中にとってはとても良いことだが、人件費がかなり上がっており、その分現金が出ていく。物価も上がっているので、工事費や

委託費全てに跳ね返ってきており、税収も上がってはいるが、増えた分、地方交付税も減ってしまう。

- ・投資事業として、小中学校の体育館へ空調を整備したことで、大変好評をいただいたが、その返済というのは、先ほどの収支見込には含まれていない。
- ・自分が常滑市に赴任したとき、財政調整基金はゼロだった。そこから事業の見直しを行い、毎年少しずつ積み立てた。しかし、このまま毎年7億円以上取り崩していくと、5年もすれば無くなってしまう。
- ・資料3の中で、貯金が多く、借金が少ない自治体として、碧南市が上げられているが、向こう何年かで財政調整基金が尽きてしまうので、非常事態宣言を出している。

(久田博司 委員)

- ・30年で182億円かかると資料にあったが、それに対して、費用対効果というのは、どのように示せるのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・図書館は数字で表すのが難しい。仮にできたとしても理解をいただけるのか分からない。
- ・前回の委員会の後に、ある議員からの一般質問の質問内容と回答を送らせていただいたが、議会は大変心配している。
- ・一方で、アンケートなどでは、50億円あるなら保育園を新しくしてほしいとか、福祉に充ててほしいという声もある。

(山田朝夫 委員長)

- ・本日、中井孝幸委員は欠席だが、事前説明の中でどのような意見があったのか。

(事務局)

- ・一度上がった建設費が下がることはなく、動向を見ると今後も上がっていく。ワークショップや策定委員会でも議論が進んでおり、このままこれを基本計画とかねて、設計に進んでいくこともできるので、理想の図書館の整備にすぐ取り組んでほしいというコメントをいただいている。
- ・一方で、市の財政状況をご説明した際には、必要であれば、規模を2,500~3,000㎡に減らしたとしても、その中で良い図書館を作ることも考えられるので、規模を縮小して整備するといったご意見もあった。
- ・また、すぐに財源が確保できないのであれば、いったんどこかに仮住まいをしてお金を貯めて、理想の図書館を創ることも考えられるとして、東京都多摩市の事例をご紹介いただいた。
- ・東京都多摩市は、まさに常滑市と同じ基本構想の段階である平成1

8年に、平成12年に廃校となっていた中学校へ仮住まいする方針とした。必要な改修だけをして、ある程度、基金の見通しがたったころ、図書館事業を再開し、平成30年に基本計画の策定し、令和6年に多摩中央公園という都市公園の中へ新築移転をした。基本構想の策定から足かけ15年であった。

(山際史子 委員)

- ・財政が本当に厳しいというのはよく分かったが、この委員会では、理想の図書館が欲しいという話をするのか、常滑市の財政にあった図書館を考えていくのか、あるいは井村委員からあったようなテナント入居など色々な方法を考えていくのか、どうする予定なのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・山際委員はどうお考えか。

(山際史子 委員)

- ・理想の図書館を整備するが、それにはとても時間がかかるので、それまでの間について、井村委員が言われていたように、色々な方法を考えていくのが良いと思う。
- ・時間がかかる間でも、地域の方には本を読んでもらいたい。お金はかかるかもしれないが、サービスポイントを増やしたり、コンビニ位の施設をいくつか作るなど、色々な方法があるし、一方で、今思い切って整備してしまうという方法もある。

(豊田雄二郎 委員)

- ・理想と現実というものが、やはりあると思うので「理想はこうだ」「ここまでは譲れない」という感じにしなければならないのだろうとは思っている。
- ・貯金をするという話があったが、今後、人件費も資材も上がっていくことになり、安くなることはあり得ない。貯金の額より、物価の上昇の方が上回ることもあり得るので、貯金ができたら、作るというのでは、いつまでたっても実現できない。
- ・今の常滑市の財政状況を考えると貯金はなかなか出来ない。思い切って投資に踏み切ることも必要である。最終的には、市長あるいは議会が判断することだとは思っているが、ここで決断をすべきだと自分は思う。

(久田博司 委員)

- ・前回は複合化の話などが出たが、何と複合化して、どんな機能・規模とするか考えるのは難しいかもしれないが、補助金などを最大限活用して、一方で、整備費や運営費を切り詰めていって、これ位であれば何とかやれるのではないかというシミュレーションは作れば、

もう少し議論が進めやすい。

- ・資料によると、市民一人当たりの借金は約50万円である。これに人口を掛けると、仮に約300億円規模の負債となり、歳入規模とほぼ同水準になる。これは企業に例えれば「年間売上高と同額の借入金を抱えている状態」に近く、決して楽な経営状況とは言えない。さらに、現在は貯金（基金）があるものの、毎年の赤字補填に充てていけば、5～6年で底をつく可能性があるという。資料を読み込めば詳細は把握できるのかもしれないが、この財政状況で図書館を建設して、最終的に市の財政がどのような状態に向かうのか、将来像がイメージしにくいと感じている。

（山田朝夫 委員長）

- ・市の財政を預かっている立場からすると、決算だけ見ると何とかやれていると見えるかもしれないが、やれない訳にはいかないのに、歳出を削ってでも、何とかやってきたというのが正直な所である。
- ・本当はやらなければならないことがあっても「もう少し待ってね」と繰り返し先送りしている状態であることは知っていただきたい。
- ・そのために、図書館もきちんとできていなかったし、ホールの修繕もきちんとして来なかったが、どうにか赤字にならなくて済んでいるのが現状である。

（豊田雄二郎 委員）

- ・そういう計画をして税金をどう分配するのかを考えるのが、行政の仕事であって、この委員会のメンバーの中では、踏み込むことはできないし、意味がないと思う。
- ・あくまで、市民の意見を踏まえて議論をした結果、「こんな図書館がほしい」というのがまずあって、そのうえで、山際委員や井村委員からも発言があったように、理想だけでは現実的ではないので、「ここは譲れるがここだけは譲れないので守ってほしい」という話や、もっと言えば「代替手段として、10年間はテナントで入る」という手法もあり得るのだから、そのような意見のまとめ方で、基本構想とすることも考えられるのではないか。

（赤尾恵子 委員）

- ・今の時点で複合化に立ち戻るといふ余地はもうないのか。

（山田朝夫 委員長）

- ・参考資料2の中で、公共施設等適正管理推進事業債が活用できた場合のシミュレーションを付けさせていただいた。単独での整備の場合、最大で単年度5.7億円の負担のところ、複合化すると、常滑市の実質的な負担が最大でも単年度5億円程度になることを示している。図書館部分だけを考えると、同じものを整備するなら、複合化し

た方が得ではあるのだが、ここに複合化する相手の費用がさらに積み上がってくるので、財政的にはもっと厳しいシミュレーションになっていく。

(豊田雄二郎 委員)

- ・財政のこともそうだが、複合化する相手方との交渉もあると思うので、どうしても時間がかかるとも言っていた。

(山田朝夫 委員長)

- ・先日お送りしたある議員の一般質問でも、複合化をもう一度検討し直した方が良いのではないかという前提で、時間はかかるが、いったんテナントに入っておいて、その間にしっかりと文化会館や公民館の関係者と議論するという考えはないかという質問だった。

(赤尾恵子 委員)

- ・自分としては、将来的に子供たちの負担が減るのであれば、複合化を希望する。

(井村美里 委員)

- ・補助金や交付金については、やはり難しいのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・図書館単独での補助金は現時点ではない。中心市街地へ色々な施設や機能を集約するという計画を作って、都市整備関係の交付金を活用して図書館を整備している自治体もあるが、常滑市の場合は、それに乗ることができず難しい。

(井村美里 委員)

- ・焼き物散歩道もあるので、駅近のウォーカブルな街を前面に押し出して考えられないかと思ったが。

(山田朝夫 委員長)

- ・もし自分が国土交通省の立場であったら、それなら、どうして市役所や病院は飛香台に移転したのか、どういう街づくりを計画しているのか、交付金をもらいたいだめに、その場しのぎの計画をしているのではないかと思う。あの時、市役所とホール・公民館・図書館を複合化すべきだったという議論に戻ってしまうが、経緯についてはこれまでの委員会でお話したとおりである。

(豊田雄二郎 委員)

- ・図書館法で図書館の設置を義務付けていれば、補助金を付けやすいのだろうけども、そうではない。
- ・ただ、補助金や交付金については、引き続き模索してほしい。

3 その他

- ・なし

4 閉 会

- ・次回の委員会は令和8年2月13日（金）午後2時00分から開催
- ・会場は、衆議院議員選挙の投票日の如何により、常滑市役所あるいは常滑市中央公民館